

乳房・リンパ節の細胞診を受けられる方へ

この資料は、これから細胞診（穿刺吸引細胞診）を受けられる患者さまに向けて、検査の内容・目的・注意事項をわかりやすくご説明するものです。不安なことや気になることがありましたら、いつでも医療スタッフへお声がけください。

あまくさ乳腺クリニック

細胞診とはどのような検査ですか？

細胞診（穿刺吸引細胞診）は、乳房のしこりやリンパ節などに細い針を刺して細胞を採取し、顕微鏡で詳しく調べる検査です。超音波検査で確認された病変に対して実施します。

この検査の目的は、病変が**良性か悪性かを判断するための情報を得ること**です。日常的に行われる安全性の高い検査であり、多くの患者さまが問題なく受けていただけます。

採取した細胞は病理検査室に提出され、専門の病理医が顕微鏡で詳しく観察します。その結果をもとに、今後の治療方針や追加検査の必要性を判断します。

この検査のメリット

細胞診は、組織を採取する「組織生検」と比べて細い針を使用するため、身体への負担が比較的少ない検査です。多くの場合、局所麻酔を使用せずに行うことができ、検査後の日常生活への影響も最小限に抑えられます。



身体への負担が少ない

細い針を使用するため、組織生検に比べて侵襲性が低く、傷も小さく済みます。



麻酔なしで実施可能

多くの場合、局所麻酔を必要とせず、短時間で検査を終えることができます。



日常生活への影響が少ない

検査後は基本的にすぐに日常生活に戻ることができます。特別な安静は不要です。



大切な情報が得られる

今後の治療や追加検査が必要かどうかを判断するための重要な情報が得られます。

この検査の限界・デメリットについて

細胞診は有用な検査ですが、すべてのケースで確定的な診断が得られるわけではありません。採取できる細胞の量や状態によっては、結果の判定が難しい場合があります。あらかじめご理解いただけますと幸いです。

判定不能

十分な量の細胞が採取できなかった場合、検査の判定ができないことがあります。

鑑別困難

採取した細胞だけでは良性・悪性の判断が難しい場合があります。

悪性の診断

悪性が疑われる結果が出た場合、より詳しい検査が必要になります。

- 上記のような場合には、確定診断のためにより多くの組織を採取する「組織生検」を追加で行う必要が生じることがあります。担当医からあらためてご説明します。

検査前に確認させていただくこと

安全に検査を行うために、事前にいくつかの項目を確認させていただきます。以下の内容に該当する場合は、必ず医療スタッフへお知らせください。

お薬について

血液を固まりにくくする薬（抗血小板薬・抗凝固薬）を服用中の方は、必ず事前にお知らせください。検査中の出血リスクに関わる重要な情報です。

該当するお薬の例：

- ワーファリン（ワルファリン）
- プラビックス（クロピドグレル）
- エリキュース（アピキサバン）
- イグザレルト（リバーロキサバン）
- リクシアナ（エドキサバン） など

アレルギーについて

以下のものでアレルギーを起こしたことがある方はお知らせください。検査に使用する材料を変更するなど、安全に配慮して対応いたします。

- 局所麻酔薬
- 消毒薬（アルコール綿など）
- 医療用テープ・絆創膏

些細なことでも構いませんので、気になることがあれば遠慮なくご相談ください。

検査当日の注意事項

検査当日は、以下の点に気をつけてご来院ください。特別な準備は基本的に必要ありません。いつもどおりお過ごしいただいで構いません。

1

食事は通常どおりお取りください

検査前に食事を制限する必要はありません。いつもどおりお食事をお取りいただけます。

2

普段のお薬も通常どおり服用してください

毎日飲んでいるお薬は、検査当日も通常どおり服用していただいて問題ありません。ただし、事前に医師から服薬の変更を指示された場合はそれに従ってください。

3

上半身を脱ぎ着しやすい服装でお越しください

乳房やわきの下（リンパ節）の検査を行います。ボタン前開きのシャツや、脱ぎやすいトップスなどが便利です。

検査の流れ

検査は以下の手順で行います。所要時間は通常15～30分程度です。リラックスしてお受けいただけるよう、スタッフが丁寧にご案内します。

1

超音波で病変確認

超音波で病変の位置を確認します。

2

針の挿入

皮膚を消毒して、正確に針をターゲットに進めます。

3

細胞の採取

必要な細胞を吸引して採取します。2～3回実施します。

4

圧迫・止血

針を抜いた後、しっかり圧迫して止血します。最後に絆創膏を貼付します。

検査中に強い痛みや気分不良を感じた場合は、我慢せずすぐにお知らせください。スタッフがすぐに対応いたします。採取した細胞は病理検査室に提出し、専門医が詳しく観察します。

検査に伴う症状・合併症について

細胞診は比較的体への負担が少ない検査ですが、針を刺す処置ですので、以下のような症状が起こることがあります。あらかじめご確認いただき、安心して検査を受けていただけますと幸いです。

比較的起こりやすいもの

内出血・青あざ

針を刺した部位周辺に青あざが出る場合があります。多くは数日～2週間程度で自然に改善します。

腫れ

検査後に一時的に腫れが生じることがあります。通常は時間とともに落ち着きます。

血腫

皮膚の下に血液がたまること（血腫）が起こる場合がありますが、多くは自然に吸収されます。

まれに起こるもの

感染

針を刺した部位に感染が起こることがあります。消毒を十分に行って予防しています。

強い腫れや痛み

通常の反応を超える強い腫れや痛みが続く場合は、お早めにご連絡ください。

気分不良

針の刺激や緊張による迷走神経反射で気分が悪くなることがあります。横になって休んでいただくと回復します。

検査後の注意事項

細胞診は細い針を使用する検査で、**検査後の身体への負担は採血と同程度**です。特別な安静や制限は基本的に必要ありません。いつもどおりの生活を安心してお送りください。



食事

検査後すぐに食事をとっていただけます。特別な食事制限はありません。



仕事・家事

検査後はそのままお仕事や家事をしていただいて構いません。特別な制限はありません。



運動

軽い運動も検査後から通常どおり行っていただけます。激しい運動については医師にご相談ください。



入浴

入浴は通常どおり可能です。絆創膏は当日の入浴時に外してください。

検査結果について ご不安なことは遠慮なく

結果のご説明

検査結果は、**1週間後に外来でご説明します**。結果説明の予約をお取りいただき、担当医の外来を受診してください。結果の内容によっては、追加の検査や治療についてもあわせてご説明します。

検査後に気になる症状（腫れがひどい、痛みが強い、発熱があるなど）が生じた場合は、結果説明を待たずにお早めにご連絡ください。

受診の目安

- 結果説明：**1週間後**の外来受診
- 腫れ・痛みが強い場合：**早めに受診**または**ご連絡を**
- 発熱がある場合：**お早めにご連絡ください**
- その他気になる症状：**お気軽にご相談ください**

どんな小さな不安でも、遠慮なくスタッフへお声がけください。患者さまに安心して検査を受けていただくことが、私たちの大切な使命です。